

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4795700014		
法人名	社会福祉法人 憲寿会		
事業所名	グループホーム ときわ苑		
所在地	沖縄県島尻郡八重瀬町字当銘370-1		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 2 日	評価結果市町村受理日	平成25年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokouhyou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=4795700014&amp;SCD=320&amp;PCD=47">http://www.kaiyokouhyou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=4795700014&amp;SCD=320&amp;PCD=47</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年10月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当該事業所は、母体施設の特別養護老人ホーム、各種サービス事業所を隣接しており、年間行事計画等(桜祭、ハーレー見学、ゲートボウル大会や納涼祭等)利用者やご家族、職員、地域住民との交流の一環として毎年開催しております。グループホームでは、季節に即した諸行事を始め、利用者の趣味や嗜好を考えた活動して、職員との共同による作品作りにも積極的に取り組んでおります。完成した作品は共同スペース等に啓示や展示をすることで自信や生きがいに繋がっているものと思います。当該事業所職員一同は施設の理念の大切を基本に職員個々が、持てる技能を最大に発揮して入所者様が安心して生活できる家庭的で温かい事業所づくりを目指すと共に、ご家族様等への心的負担の軽減支援や外出等、必要に応じて常に対応しております。又、認知専門外来及び内科等定期受診等の際は、必要に応じて送迎や付き添い同行受診を行っており、担当医へ経過報告や都度、支援経過を報告すると等、本人、家族様と担当医、事業所で検討し、支援策に常にご利用しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- ・当法人は「地域福祉課」を置き「利用者も地域住民である」事を認識し、行政・地区・町内の各種団体と連携を持ちボランティア・学生実習・認知症啓蒙活動など地域活動に積極的に参加し、又法人事業所に地域住民や行政等を招待し地域と密接に連携している。
- ・法人各事業所は同一介護ソフトを使用しイントラネットで繋がり、各施設事業所が情報の共有を図っている。
- ・職員は法人の協力や支援での国家資格の取得や特技を自己研鑽し業務に活かし「介護業務の達成感や遣り甲斐を感じ」働きやすい職場と評価し事業所内を利用者と共に作成した作品で飾り居心地の良い環境を提供している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成25年12月4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者様個々の尊厳を大切に暮らしやすい環境整備を心がけ、「入所者様が悠々と温々今日ん、あなたらしさを支援いたします。」事業所の基本理念「ゆったりと心穏やかにおちついた、温かい心持でそれぞれがその人らしく生活できるよう寄り添い支える事を基本に介護支援にあたっております。	事業所創設時職員全員で作成し、利用者の尊厳を尊重し個々の要望に沿った温かみや安心できる介護を提供したいと考え日常支援に繋げている。又会議や申し送りで理念を振り返り、利用者理解や支援方法を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	八重瀬町敬老会、桜祭り、ハーレー行事への参加や法人開催行事ゲートボール大会、本島縦断駅伝応援や近隣区の綱引き行事へ参加による地域交流を継続しております。又、地域の住民や事業所利用家族様を招いての納涼祭りには、一緒に参加して地域住民と交流しております。	「利用者も住民の一員」であり地域行事には積極的に参加している。会場に招待席が用意され職員は準備片付けを協力し青年会等は「地域を支えてきた先輩」と敬い交流している。専門学生等による実習後の支援やボランティア等の協力がある。	管理者職員は行政と協力し「介護事業がより地域に貢献出来るよう」模索しており、今後の取り組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	八重瀬町から委託されているミニディや「島と一てい語らな」にグループホームの相談員が参加して、介護保険サービス、介護方法や相談助言を行っている。又、八重瀬町包括や婦人会からの依頼があれば積極的に協力している。又、中学校や高校、看護学校等の実習生へ認知症高齢者の理解について啓蒙している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催している運営推進会議にて、入所者様に経過報告する際に委員から支援策や解決案等について、具体的な方法を伝え、具現化する経緯と結果について継続的に報告しております。成功、不成功に関わらず報告します。委員の意見や助言等も個々、又は、全体の支援策に取り入れている。	運営推進会議は利用者家族・区長・民生委員・行政担当者が参加し定期的に開催している。会議を重ねる中で認知症の理解も深まり、提案や地域での安否確認等の情報交換を活動や支援に繋げている。外部評価は各委員に配布し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員に八重瀬町包括支援センター所長、八重瀬町福祉課主査が常に参加する事による相互の情報交換や協力関係が構築されており、地域支援等の共通目的において、連絡会に参加する等、協力関係を構築している。	行政とは虐待・暴力・経済的困難等の困難事例を相談し、家族や利用者への支援や対応を協力し合っている。地域の高齢者の生活事情を事業所と行政が情報を共有し対応した結果、家族関係を調整したケースもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症による周辺症状等で徘徊で屋外に出してしまう利用者様は複数在籍されておりますが、それぞれ、帰宅願望や不安感から屋外に出る行為等、何らかの理由があることを理解し、職員は受容することから実践し、言葉の抑止や施錠等で身体拘束に繋がらないよう、必要に応じて付き添い落ち着くまで対応しています。	身体拘束は基より「身体拘束以外の拘束」と考えられる「待って・・・どうして・・・」等の声掛けで利用者の行動や想いを拘束しない対応を検討し共有している。出入り口は開放し戸外への散歩や買い物・外出も個別対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待等防止関連法は基より、それぞれの入所者様が当該事業所に入所されるまでの経緯を話し、本人や家族の心情等に思いを馳せ、入所後の支援策に反映している。又、定例会や担当者会議においても都度、入所者様やご家族への尊厳を厳守し、支援することを確認している。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者からの入所申込があった事を機会に権利擁護や成年後見人制度について勉強会と開催。毎月の入所判定会議等において、話される機会が増えた。又、平成25年3月に生活保護指定事業所となりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時は、入所予定者やご家族に対して重要事項説明書の際に内容を読み上げた後に具体的な対応方法や確認事項をわかりやすく実例を挙げて、説明するようにしている。又、本人、家族が事業所側がどこまで協力してもらえるのか等の質問に対しても、同様に説明し安心してもらえるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者様やご家族からの要望を来苑時や訪問等で依頼や改善事項を聞き取りし、それを基に事業所及び職員が改善策を検討して、可能な限り要望に応えられるようにしている。入所者様と家族様の支援をする事で、事業所や職員の工夫でより良いサービス提供ができる可能性があれば積極的に改善策に取り組んでおります。又、毎月一回は沖縄県介護保険広域連合派遣相談員を受け入れ、入所者様からの様々な要望等を聞き取りしていただき日常支援に活かしています。	利用者の要望は「正月・お盆等の帰宅・墓参・外出・受診時の同行」が多く、家族からは面会や地域行事の際「受診時の病状説明と送迎・代行申請・介護負担・経済的負担等」の相談を受けている。帰宅等は家族と調整し外出や受診も対応し、排泄用具の使用方法を検討し経済的負担を考慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定時申し送り、毎月開催のグループホーム会議や担当者会議等で意見や提案等発言する機会をもっている。又、意見、提案、アイデアを全職員が検討した後に、介護支援の改善やより良い介護支援に繋がるきっかけとなっている。	月1回の会議で「利用者の言動行動に対する気付き」を共有し理念に沿った支援に繋げている。職員は三線・琉舞・手工芸・紙芝居など自己習得し、利用者が楽しめる日常の支援に反映している。又法人主催の学習会等に参加し、介護支援専門員や介護福祉士等の専門資格の習得に熱心である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々、職員全員の努力や実績等について、都度、敬意をもって称賛の言葉を贈ると共に給与水準についても反映している。又、職員に対して、悩みや行き詰っている事がない声かけを欠かさず行っている。心身共に安定した状況にないと入所者の介護支援ができない事を考慮して、休養が図れるよう心かけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、研修や各種の勉強会等の参加を希望する事ができ、更には多くの研修を受ける機会を確保できるようにしています。定期的な職員全体会議等の内容を募集し、職員の意見や要望を活かし、講師を招く等して職員の研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加入し、勉強会や施設見学会などにより、多くの情報交換や交流活動に参加をし、毎月のグループホーム会議で報告や連絡会主催の研修等への派遣を実施している。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事や不安に思っているように感じて相談依頼があれば、居室等での面談を都度行っている。又、ゆっくり聴いてあげられるように心がけています。日頃の言動や行動及びバイタルチェック等で変調を感じる等を確認したら都度、声かけで確認することを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	互いの信頼関係を築くのはとても大事なことだと思います。感じている事、不安に思っている事を気兼ねなく伝えられるようにしています。初期段階では、ご家族のお話を拝聴することから実践し、お話や思いから必要な事柄の情報を把握し思いや感情に共感する事を心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が必要としている事、又、気づかない事等、お話を拝聴しながら問題を把握するように心がけ、根本的な問題解決や軽減支援の助言を行いながらの対応に当たっております。又、その互いに確認し合う事が大切であることも合わせて説明しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通して、入所者様思いを拝聴すると共に又、思いを共有する意識をもって支援にあたりると共に職員それぞれが、自分達の出身地や趣味や入所者様個々への思いを伝えるように努めることが互いの距離を縮める近道であることを指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡による状況報告や必要に応じて、面談時間をつくり入所者様の状況に応じた支援策を提案し、一緒に支援策を考える機会を持って、を実践しています。又、ご家族からの提案や不安に思っている事を解決する機会とし双方向の関係構築の役割を意識しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	懐かしい場所を尋ねたりする事で、これまで継続していた馴染みの関係が途切れないように支援しています。ご家族、親族や友人の面会があった際は、写真撮影をして居室に飾ることをしている。又、常にお客様が来るものとして、お茶やコーヒー、お菓子を常に準備して、おもてなしできるようにしています。	利用者は自宅や公民館・運動会・敬老会等の地域行事に参加し、地域の友人や家族親戚・茶飲み友達等と交流や訪問があり「良い所に入ってよかったね」と話す訪問者がいる。又利用者の希望でスビポーポー・アイスクリーム・天麩羅など各地の食べ歩きを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の営みを通して、お茶時間、食事等の時間を共有することで会話の機会を持つ等で結束感が持てるよう支援している。又、誕生会やおやつ会、余暇の活動等においてひとり一人の個性を大事にしながらも、孤立感がないよう同士の関わる機会をつくれるように支援しています。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養等の入院や系列特養等への入所で退所となっても利用者様を定期的に訪問し、経過の把握や声かけを継続しています。又、ご家族にも同様に声かけを継続して退所後も相談等に対応し、関係性の継続に努めております。他事業所入所されても、定期的に訪問を継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様、個々の個性を大切に、その人らしい暮らしの希望や思いを把握できるように努めています。又、日頃から心配事や不安を感じることがないかについて、声かけ等を心がけています。都度、個々の状況に合わせて臨機応変に支援しております。	利用者は「家族に心配かけないで安心して暮らしたい」「自宅で暮らしたい」、家族は「本当は家で看たいが仕事や孫の世話や介護は大変・・・」等思いは様々であるが、家族友人の訪問が継続する過程で「自宅は地域にあるが自室は此処にある」と思い居室での交流を楽しみ集っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人知人が訪ねて来た時には、会話の中から生活歴等を情報収集し、今後の生活支援に活用できるようにしています。又、入所者様との関係性を職員が共有できるよう情報提供し、会話の種となり入所者様との関係構築と喜びに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な生活や介護支援において、心身及び身体状況に応じて、日々対応に当たっている。又、健康管理や心身機能の状態、生活の様子を日誌、個人記録に記載し、今後の暮らしや支援の方向性の把握資料として活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はサービス担当者会議で、入居者や家族、必要時は医師も参加して検討し、入居者の状況の変化時は計画を見直している。「ケース記録日誌」から申し送り共有する。日常の関わりを捉えた、入居者の不安や思いを介護計画に反映して支援に当たっている。	モニタリング・アセスメントは3ヶ月に1回、介護支援計画は更新時・随時に治療方針を確認し利用者家族・職員が参加し主訴を基に作成している。経過記録は認知症の周辺症状・ADL・家族情報等に留意しサービス内容に沿って入力し、経過記録や服薬・排泄等の帳票は印刷して保管している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や介護実践を通しての様子や気づきをケース記録や介護日誌に記載し、介護支援の実践に活用している。又、入所者様個々の心身状況に合わせた支援体制の構築や介護計画の見直しの際の資料としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者様の心身機能及び疾病、認知症の経過において、新たな対応や支援が必要となるであろうと判断される際から家族様へ予測される状況を説明すると共に早めの受診やその後の支援において、事業所が率先して対応にあたっております。病院との調整、同行による経過報告、送迎対応等実施しています。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院等の地域支援連携室や八重瀬町包括支援センター及びた事業所からの問い合わせや必要に応じた情報を提供したり、入所相談者等への介護や介護保険サービス利用への助言を提供しています。又、依頼があれば、事業所の紹介や訪問の連絡調整も行います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれかかりつけ医を持っており受診時には、本人の健康状態や生活状況についても情報を提供すると共に同行受診を行って直接かかりつけ医への面談で状況報告や対応時の状況の説明等をしている。又、認知症の進行と思われる周辺症状の変化で心身機能の悪影響があると判断された際は、看護師を交え経過状況と懸念される事柄を説明した上で、認知専門外来受診を勧める。その際は、医療機関への情報書提供、受診調整と送迎等、同行受診協力を継続する。	これまでの馴染みのかかりつけ医を継続して受診している。原則家族が受診に付き添うこととしているが、付き添いが困難な場合や専門外来の時には職員と一緒に付き添い医師より直接医療情報を得ている。受診後医療情報を職員全員で共有できるようパソコンソフトで文書管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人事業所(デイサービス看護師)グループホーム看護師兼務者を配置して、毎日の健康管理や受診の経過報告内容確認や緊急時等必要に応じて、受診対応できる体制としております。事業所で疾病予防や注意点を利用者本人や職員へ助言や指示を支援に活かしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人様やご家族が不安にならないよう担当医師や医療スタッフとの情報交換やご本人やご家族と医療スタッフとの橋渡しを積極的に支援しています。又、カンファレンス等へ参加しご本人、ご家族の要望も積極的に伝えられるよう支援しています。退院後の事業所での支援策も確認するようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約締結時の重要事項説明の際に疾病や認知進行に伴う、重度化や終末期についての本人、家族様の意向を確認する。要望や依頼があれば、重度化した際は、同一法人「特養」への入所調整や長期入院による退所者も特養受入れいが可能であれば同様に入所調整致します。入所するまで、入院医療機関との調整や経過確認も実施しています。	入居者及び家族の意向によりホーム内において看取りを行うことを文書にて明文化している。現在は看取りの対象となる方は見られないが、今後ホームでの訪問診療ができるよう入居者のかかりつけ医と調整している段階である。重度化や看取りについては状態変化に応じて家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で応急処置の勉強会や訓練を定期的に行うと共に、DVD等による自主勉強会で救急事態に対応できるようそなえている。又、今年度にAEDを設置予定で各業者と調整中であります。設置後は定期的に使用訓練を継続実施する予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を実施。1回は消防署員の立ち会いで実施。火災や地震、水害等のビデオ勉強会を実施しております。平成24年から近隣区長の協力で火災や地震水害時等の相互で協力すること確認致しました。又、大規模災害時には、一時的な避難受け入れの場所として協力できる事を合わせて確認しております。	1回は消防署立会のもと避難訓練を実施したが、もう1回はDVD映像による災害に関する勉強会を事業所内で行った。スプリンクラー等事業所内の消防設備は整備され定期的な点検も行っている。地元区長も消防訓練に参加し災害時の避難場所としての役割についてお互い共通理解を図っている。	年2回昼夜を想定した避難訓練の実施が法令で義務付けられている。次年度までに夜間を想定した訓練を実際の夜勤帯に実施できるよう消防署と話し合い準備してもらいたい。



沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様が事業所で安心して、その人らしい生活がおくれますよう、思いや要望を尊重して支援策として実施しています。又、その人の誇りやプライバシーに配慮して、申し送りや会議の際は、実名を呼称せずに居室名を使用するよう心がけております。又、利用者様に対して、さん付けや支援の際は、お手伝いしてもよろしいですか？と確認してから介護支援にあたるようにしております。	調査当日は入居者が個々のペースでゆったりとした雰囲気の中で生活している様子が確認でき、職員の声掛けも耳元で入居者ペースの行動を見守る主体に寄り添っていた。入居者同志でお茶を手渡したり声をかけ合う様子から職員が「入居者の生き方を尊重する」支援を大切にしていることが確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な生活で入所者様が希望する事、依頼事項や遠慮したいとの要望の表出があれば都度、要望に沿うように支援している。ご家族等との調整が必要な際においても、連絡調整をおこなって対応方法を伝えてできるだけ早急に対応できるよう支援してる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビや沖縄芝居を日課としている方、散歩やドライブ等行っている。歌っている時の表情が印象的な方、入浴が苦手な方など利用者ひとり一人個性に合わせた支援を基本に行っています。その日の体調や気分を確認することを心がけ個々からの希望を聞いてその人のペースを乱す事のないよう柔軟に対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容師の経験を持つ職員がおり、本人様やご家族の意向を確認しボランティアで行っています。又、女性は入浴後はヘアークリーム等で整髪を行い、男性は髭剃りをする等、整容支援を継続しております。又、日々の更衣では似たような衣類着用が続かないよう気遣います。都度		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員がテーブルを囲んで一緒に食事をする。会話も盛んである。食事の配膳から後片付けも一緒に行っています。又、個々に応じた食事形態(副食のカット)の工夫、自分が何を食べているかわかるようにしております。又、食卓テーブルにはカラフルな生地等をレイアウトして見て楽しめるように工夫しております。	主食と汁ものは事業所内で作っているが、それ以外の副食は3食とも法人施設からの配食を受けている。食事に関する作業に入居者が参加している場面は確認できなかったが、職員は入居者と同じ食事を一緒に食べ、月に2~3回入居者と一緒におやつを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量の記録、水分量の確認を行い、ひとり一人の状態把握に努めて支援を行っています。又、水分摂取支援として複数の飲み物を準備して嗜好によって選択できる用意を常に行っている。又、食事摂取量が少ない利用者様は、栄養補助飲料を準備してもらっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底しています。声かけ助言や介助が必要な方にも口腔ケア支援を徹底しております。(夕食後はイソジンうがい薬を使ってケアを行い、義歯は洗浄液に付けて置きます。)又、平成25年7月から訪問歯科診療を実施しております。		

沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や見守りを行っている。紙おむつからリハビリパンツへ変更して、昼夜トイレやポータブルトイレへ誘導を実施しております。残存機能の維持の観点から家族様へ説明して実施しております。又、経済的効果にも貢献しております。	屋間は全員トイレに誘導し、できる限り自立した排泄に向けて取り組んでいる。居室からトイレまでの距離が長く夜間は5名の方がポータブルトイレを使用している。排泄チェックをパソコンのソフトに記入し、排便・排尿パターンの情報を職員間で共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	母体の管理栄養士の食事献立の工夫、水分量の確保、日中の活動機会により、便秘の予防ができるようにケアを行っています。又、食物繊維できた補助職や野菜ジュース等も定期的に納品して飲用していただき喜ばれております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や外出のタイミングを見ながら入浴が楽しめるようになっています。介助が必要な方については一日おき行なっています。又、入所者様からの希望あった際は、毎日入浴にも対応している。合わせて、入浴時間も本人が希望される時間帯に対応するよう調整等もできるよう支援しております。	毎日入浴できる体制をとっており、2日に1回の間隔で入浴している。朝本人が起きた時からうまく入浴に誘導できるよう、事前に職員間で声かけや時間等の工夫を確認している。浴室内の外壁にシールを貼りつけ露天風呂のような雰囲気を出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋があり室温の完備、窓には遮光カーテンを取り付け、電動式ベッドの設置。利用者が安心して過ごせるようになっています。休息の際は、居室の扉を閉める等、静かに過ごせるよう配慮しております。又、安らかな気持ちになってもらえるようアロマも活用しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には薬の説明書を添えてもらい、職員は服薬情報を確認しています。利用者の体調の変化にも留意を行っています。又、個々の処方薬はそれぞれに専用ケースを準備して保管管理しております。又、薬の変更が会った際は、看護師へ報告して作用や副作用注意点、指示を仰ぐ等連携している。経済貢献としてジェネリック薬への変更も家族へ助言しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道や絵を描いたり作品づくりに熱心な利用者がいます。意向を伺いながら職員と一緒に活動を楽しんでいます。又、入所者様の楽しみ、生きがい、等を大切に考え、職員が積極的に三味線や琉躰等のを練習し、入所者様と楽しみを共有できるように個々が努力を継続しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、近隣までの散歩を希望される利用者があり支援を行っています。ご家庭での冠婚葬祭や旧盆帰省等について外出支援として送迎対応等の支援サービスを積極的にしております。又、社会交流として、毎月一回は、景勝地や観光地を訪れ、ご当地で評判の食べ物をいただいたり、外食会として楽しみながらそれぞれの地域で交流を行っております。	日常的に近隣の公民館やたまご屋まで散歩を兼ねて外出している。また週に2~3回は遠出も兼ねて外出し、カラオケハウスでカラオケを楽しんだり入居者の希望を受けて食べ歩きをしている。家族の方とホテルのバイキングや洋服の購入、沖縄芝居に出かける入居者も見られる。	



沖縄県(グループホームときわ苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者様より、金銭に関わる要望があった時には、ご家族へ連絡し来苑をお願いする等事前調整を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新年には本人様より御家族宛へ年賀状を出していますが、手紙のやり取りは殆どありません。家族へ電話したいとの要望時は、常時対応できるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく、リビングは利用者と職員がゆったり過ごせるように広さを確保。明るく落ち着いた雰囲気を中心にゆったり過ごせる空間を提供しております。又、壁には共同の作品や絵画が掲示すると共に季節感を意識してのレイアウトを入所者様と職員が一緒に行っている。	ホーム内の壁には、入居者と共同で制作した作品や外出した時の入居者の楽しそうな表情が確認できる写真が飾られている。入居者同志がゆったりと過ごせるようリビングの共有空間にはソファが確保されている。正面玄関付近の棚には季節に応じた飾り物が置かれ来訪者の気持ちをやわらげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングでは利用者同士が談笑したりテレビ観賞される。新聞や本、雑誌等を見られるようにテーブルや椅子を設置しています。又、馴染みの入所者様同士が、相互の居室を訪れて雑談を楽しまれております。その際は、居室にお茶や菓子を届けたりしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は、本人や家族様へ本人がなじんで必要な品や家族様や孫等の写真を持参していただくよう勤めております。又、家族様から本人が好むレイアウトや必要物品準備等必要があれば都度、準備して、自室で落ち着いて過ごせるよう工夫しております。	居室内にはカジマヤーの時の家族の集合写真等が貼られている。写真以外にも居室前の飾り等、一人一人の生活背景が感じられるような工夫が見られた。各居室には洗面台以外にホームが準備したベッドとタンスが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレや浴室にはわかりやすい工夫や表示で目印を付けて対応している。壁には日めくりカレンダー、時計を設置し確認できるようにしています。残存機能を損なく事ないう常に支援している。又、身体機能に合わせて、居室内に手摺等を設置しており、状況変化に応じて、設置場所を変更したり、身体状況に応じた支援を継続しております。		